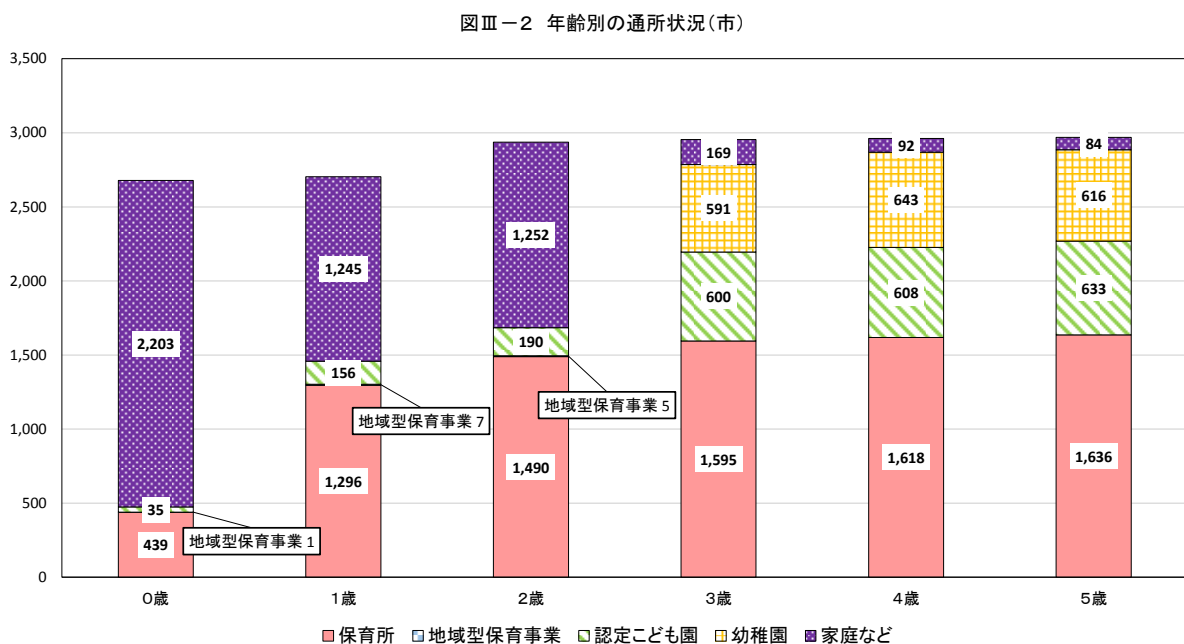
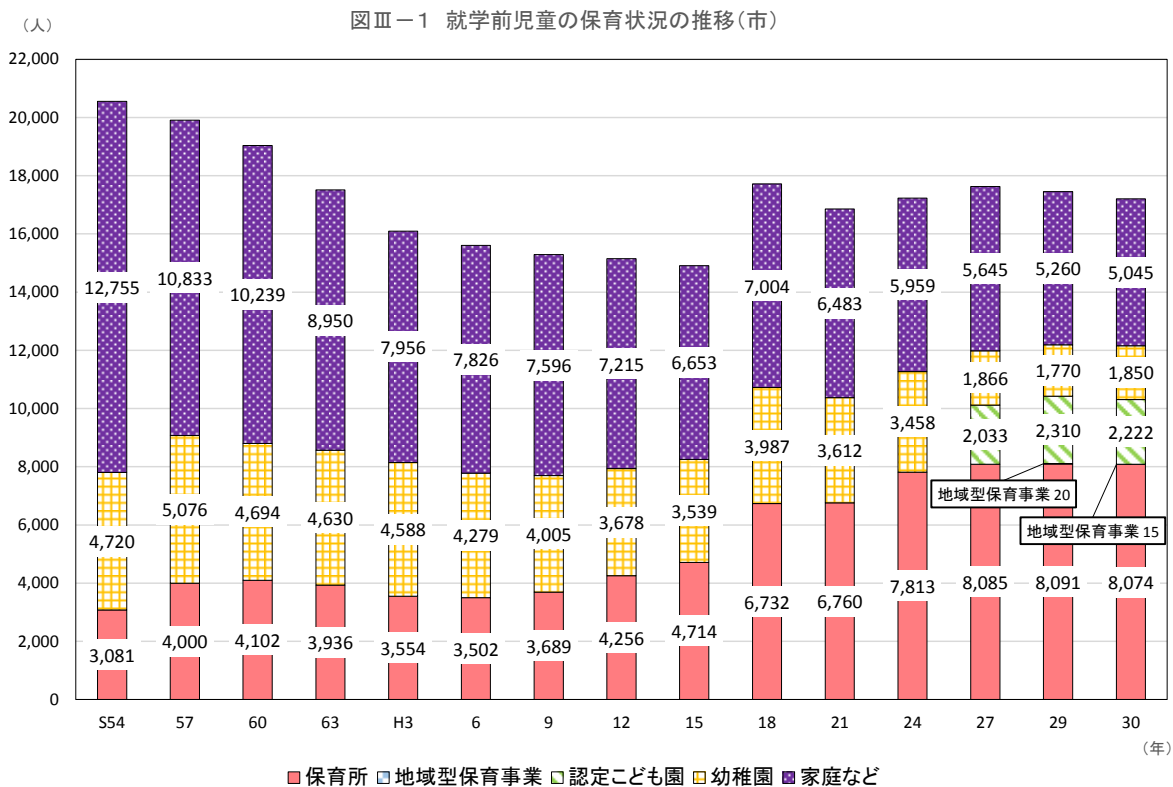


Ⅲ 家庭・健康・福祉

1. 就学前児童の保育状況（市）

久留米市の就学前児童の保育の状況は、共働き世帯の増加等により、家庭での保育数は減少し、保育所等で保育されている児童数の増加が続いている。

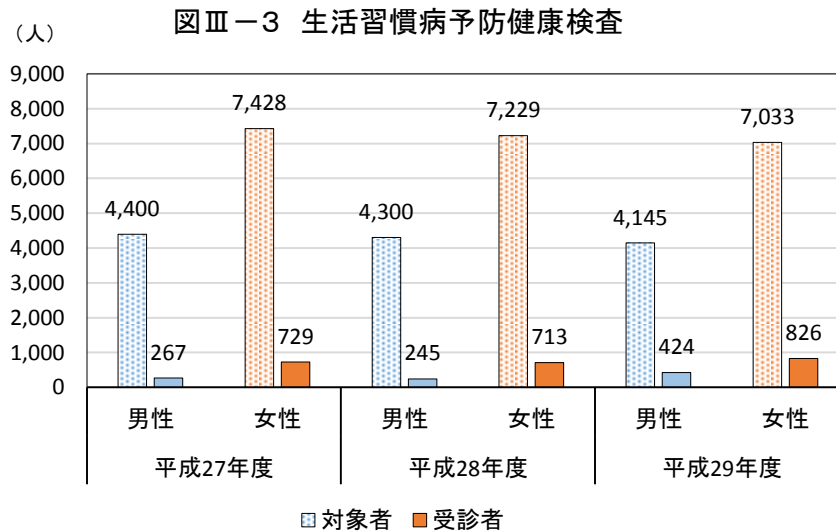
年齢別にみると、0歳児においては8割が家庭等で保育されており、1・2歳児においては半数程度が保育所・認定こども園を利用している。また、3～5歳児では9割が保育所や認定こども園、幼稚園を利用して



2. 生活習慣病予防健康診査・各種検診の受診状況（市）

（1）生活習慣病予防健康診査

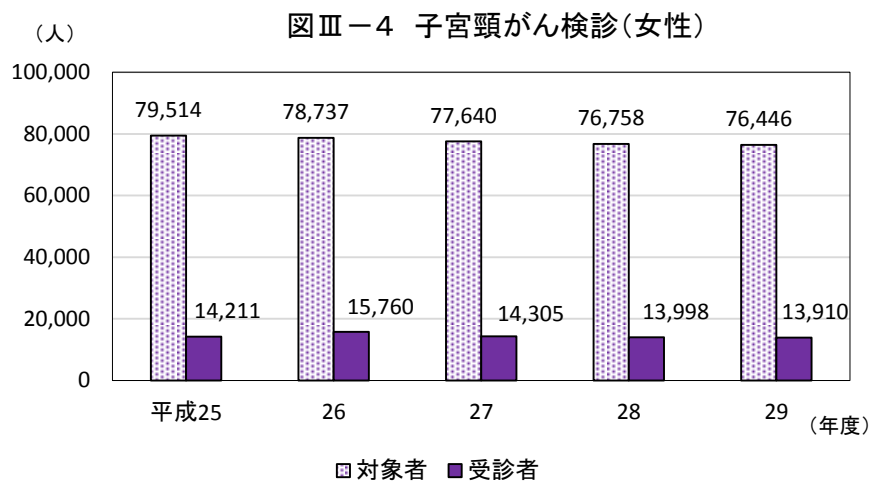
久留米市では、35歳から39歳及び40歳以上で各医療保険の被保険者・被扶養者に該当しない人を対象に、特定健康診査に準じた内容で、生活習慣病予防健康診査を実施している。平成29年度では、対象者は減少しているが、受診者は増加している。



資料出所：「平成30年版 保健福祉事業概要」

（2）子宮頸がん検診〔女性〕

20歳以上の女性を対象に実施している。久留米市では、平成21年度から、女性特有のがん検診受診促進、がんの早期発見及び健康意識の啓発のために、がん検診無料クーポン券事業を実施している。平成29年度の対象者は76,446人で受診者は13,910人となっている。



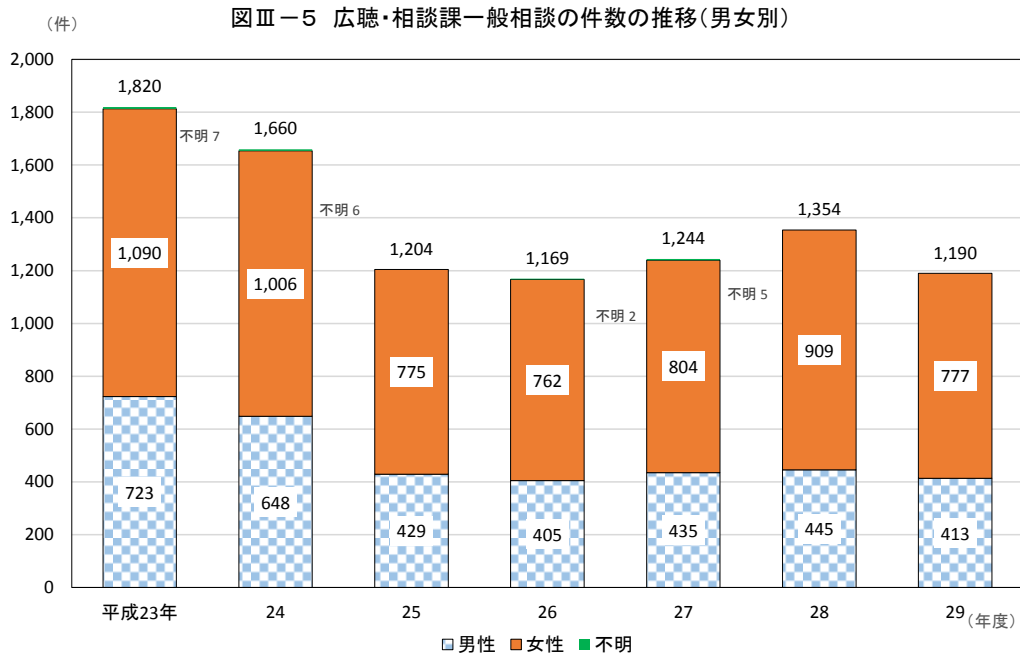
資料出所：「平成30年版 保健福祉事業概要」

3. 相談の状況（市）

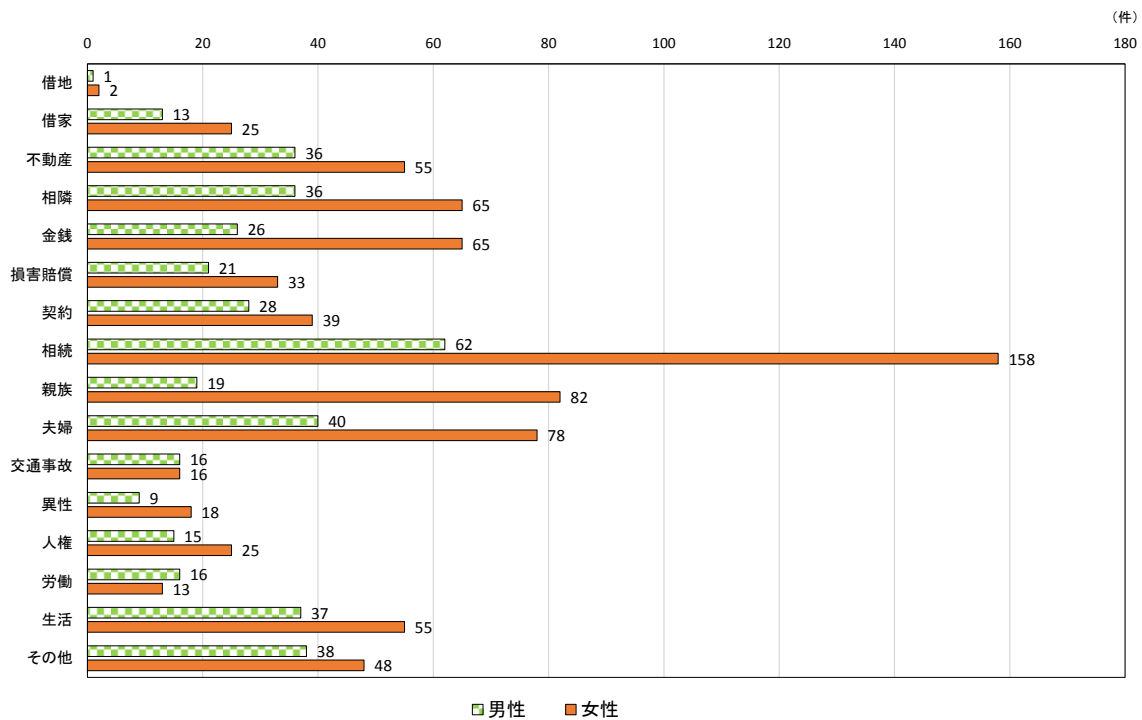
（1）広聴・相談課一般相談

広聴・相談課への一般相談は、全体として減少傾向にある。男女別では女性の方が相談件数は多く、男性の相談件数の1.89倍となっている。

女性からの相談の内訳を見ると、「相続問題」、「夫婦問題」、「親族問題」の上位3項目で女性からの相談全体の40.9%を占めている。次いで、相隣に関する事、金銭に関する事、不動産に関する事、生活に関する事などの相談が多い。



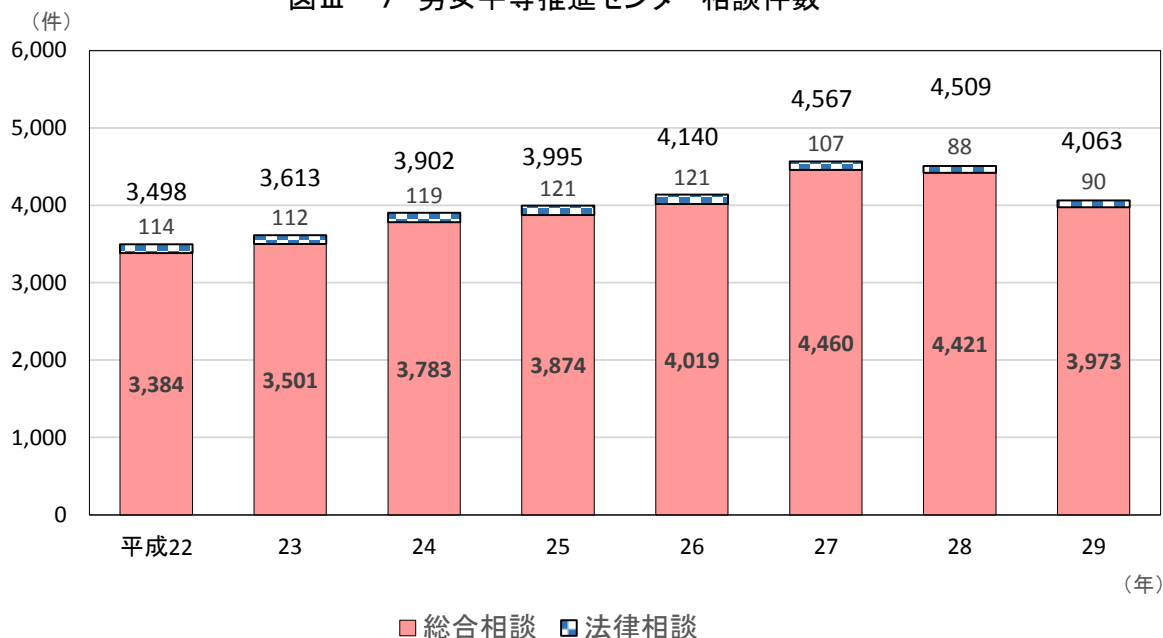
図Ⅲ-6 広聴・相談課一般相談の内訳(平成29年度)



(2) 男女平等推進センター相談

総合相談件数は、平成27年度から減少に転じているが、依然高い数値で推移している。

図Ⅲ-7 男女平等推進センター相談件数



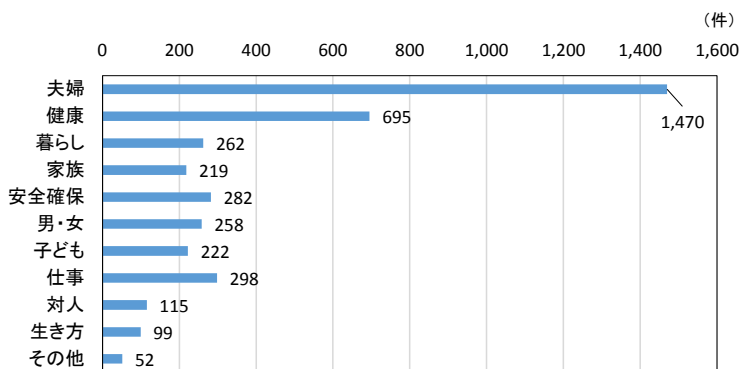
・総合相談と法律相談の内訳

総合相談では、夫婦に関連する相談が約5割を占めている。次いで、健康に関する相談が多い。

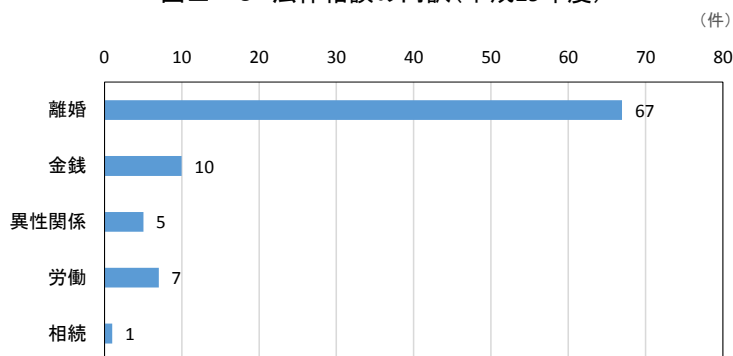
法律相談では、離婚に関する相談が最も多くなっている（図Ⅲ-9）。

また、総合相談の「夫婦」に関連する相談の中では、配偶者による暴力の相談が最も多い。配偶者による暴力の内容では、精神的暴力及び身体的暴力が多いが、これは他の暴力とも重なって起きている（図Ⅲ-10）。

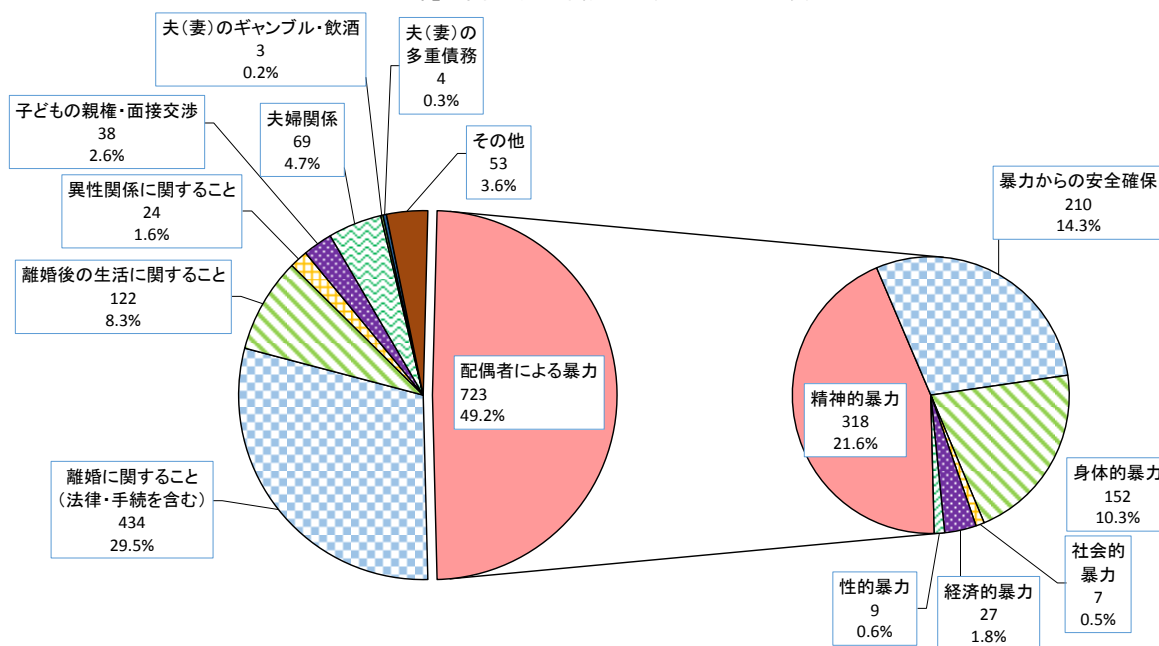
図Ⅲ-8 総合相談の内訳(平成29年度)



図Ⅲ-9 法律相談の内訳(平成29年度)



図Ⅲ-10 「夫婦」に関連する相談の内訳(平成29年度)



資料出所：市男女平等推進センター

(3) 婦人保護相談

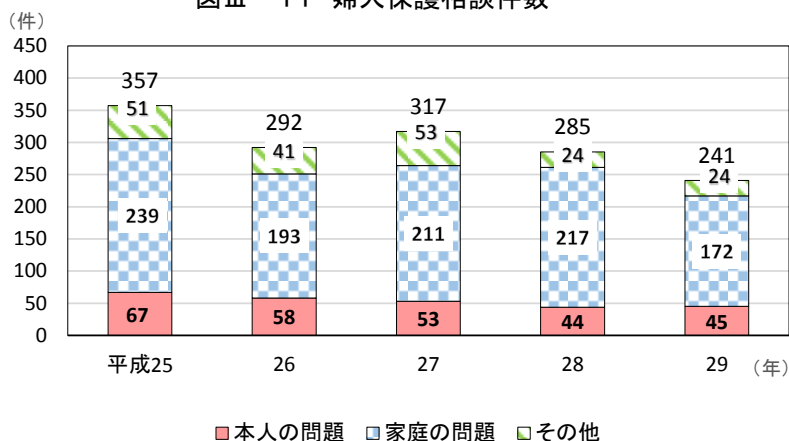
相談件数は近年減少傾向にある。

本人の問題よりも家庭の問題での相談が多く、平成29年は本人の問題の相談が45件、家族の問題の相談が172件となっている。

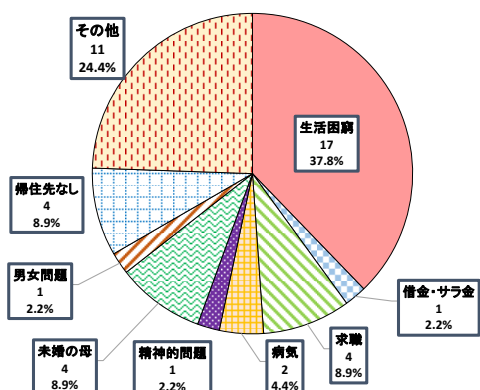
本人の問題の相談内容は「生活困窮」が最も多い。

家族の問題の相談の中では、特に夫の暴力・酒乱や離婚問題の相談が多い。

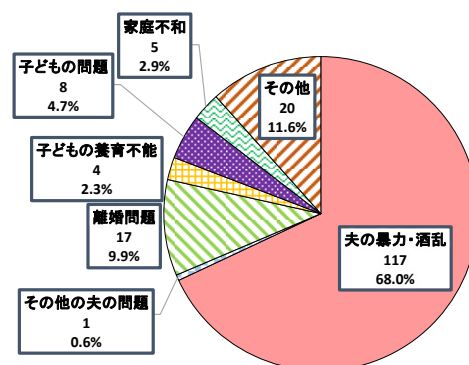
図Ⅲ-11 婦人保護相談件数



図Ⅲ-12 「本人の問題」内訳(平成29年)



図Ⅲ-13 「家庭の問題」内訳(平成29年)



(4) 母子・寡婦福祉相談

相談件数は全体的に減少傾向にある。

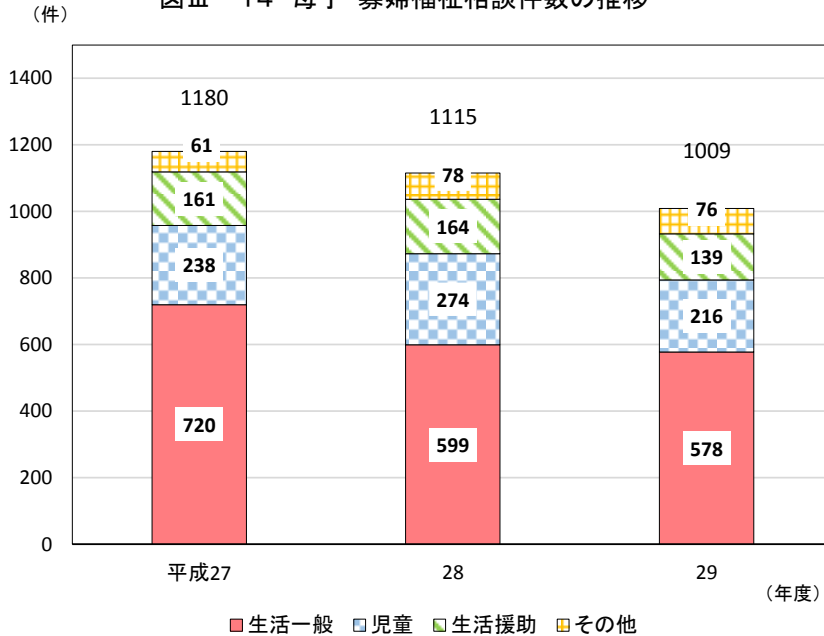
生活一般に関する相談が多く、全体の5割以上を占めている。内容としては、児童の養育相談が最も多く、

庭紛
福祉
相談が
いる。

次いで、「家
争」、「母子
資金」の相
多くなって

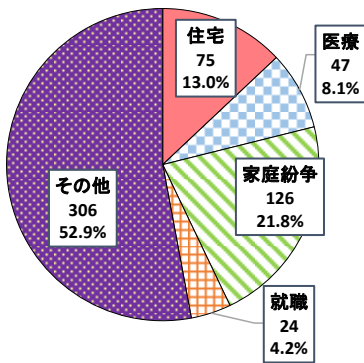
資料出所：市家庭子ども相談課

図Ⅲ-14 母子・寡婦福祉相談件数の推移

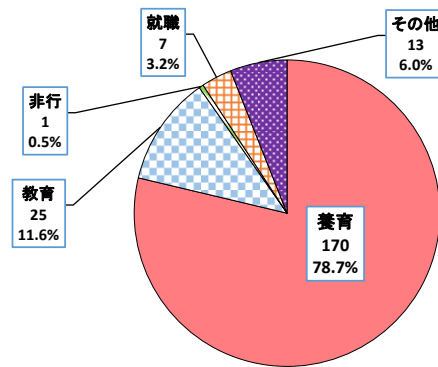


資料出所：市家庭子ども相談課

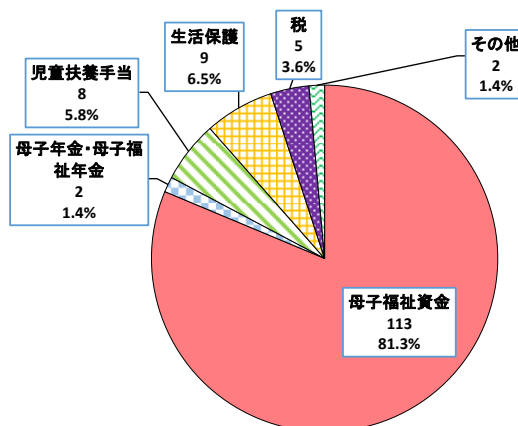
図Ⅲ-15 「生活一般」の内訳(平成29年度)



図Ⅲ-16 「児童」の内訳(平成29年度)



図Ⅲ-17 「生活援助」内訳(平成29年度)

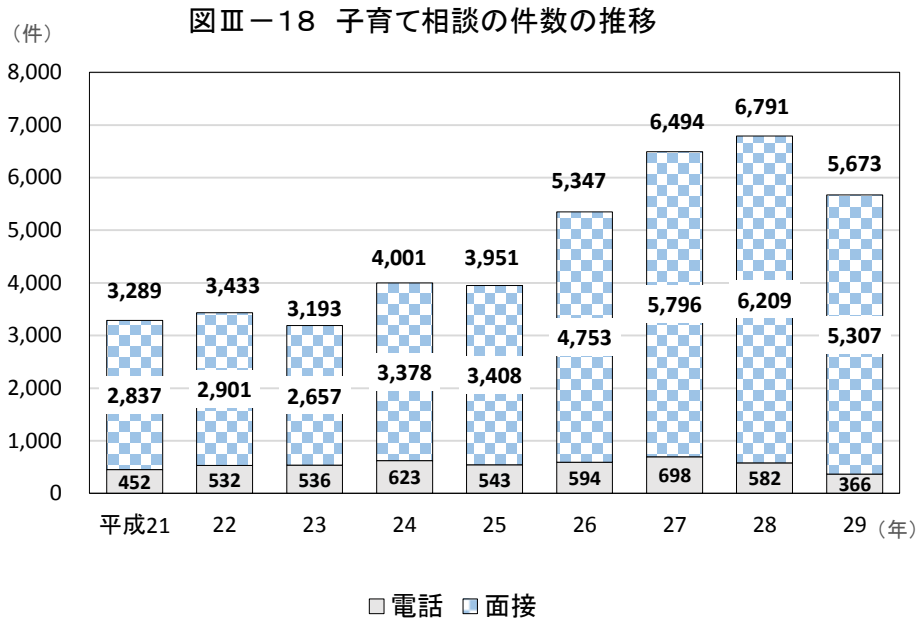


(5) 子育て相談

子育て相談の総合件数は、平成26年度以降増加傾向にあったが、

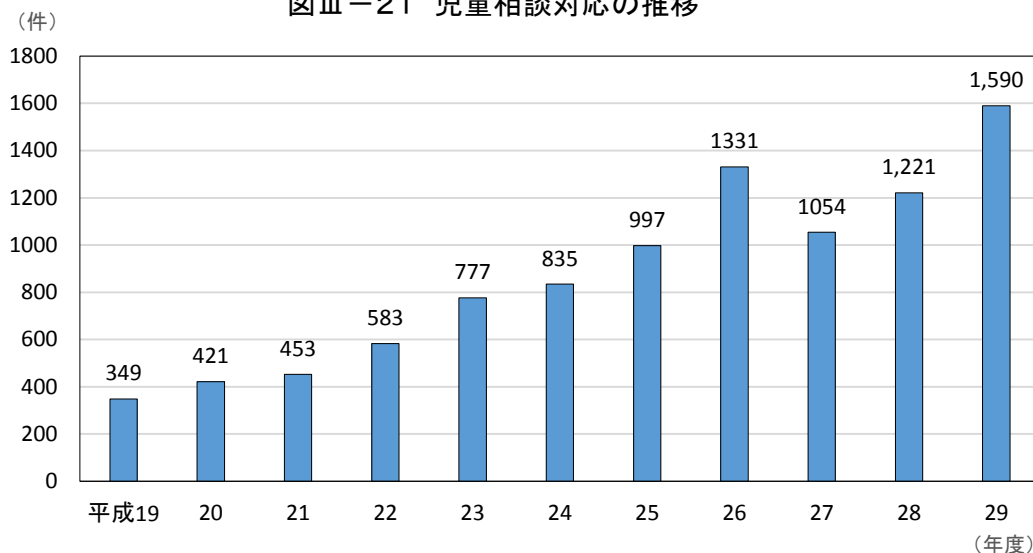
平成29年度は減少している。相談方法としては、電話相談よりも面接による相談が多い。

また、相談の内訳は、電話・面接相談ともに「環境・育児」が最も多く、次いで基本的な生活習慣に関する相談が多い。

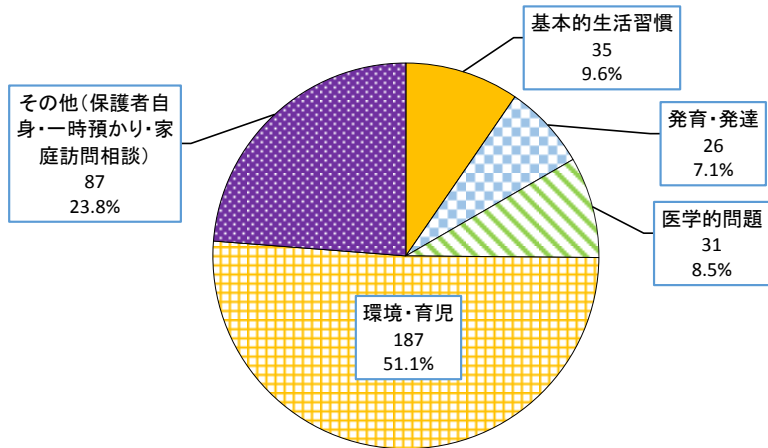


子ども相談課

図Ⅲ－21 児童相談対応の推移



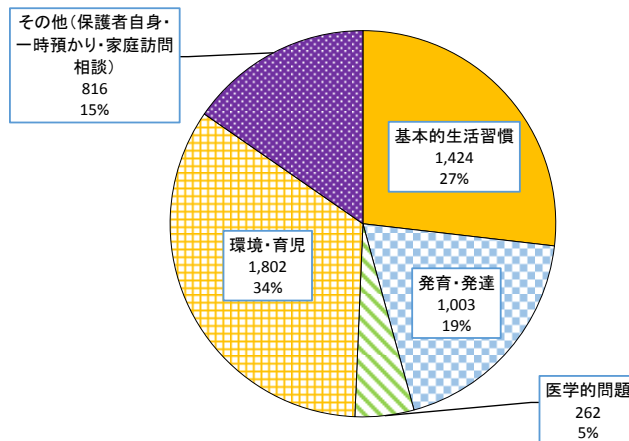
図Ⅲ－19 電話相談の内訳(平成29年度)



4. 児童虐待の状況(市)

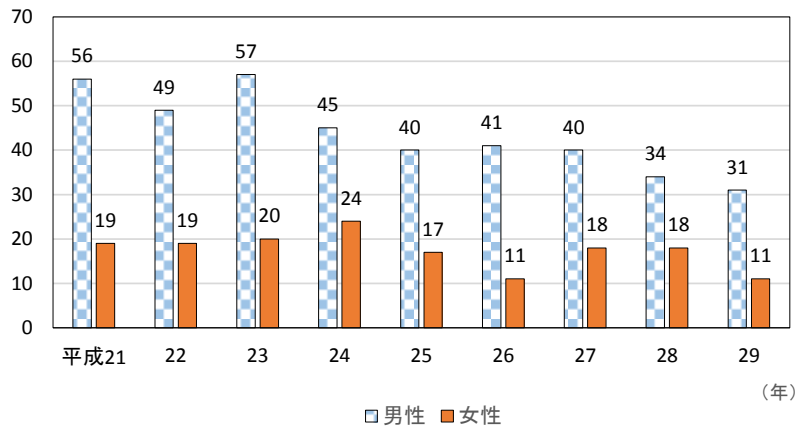
資料出所：市子ども政策課
久留米市における児童相談対応件数について、増加傾向の数値で推移している。虐待の種類別対応件数は、保護の怠慢・拒否(ネグレクト)が最も多く、次いで「心理的虐待」、「身体的虐待」の順となっている。また、主たる虐待者は実母が最も多い。

図Ⅲ－20 面接相談の内訳(平成29年度)



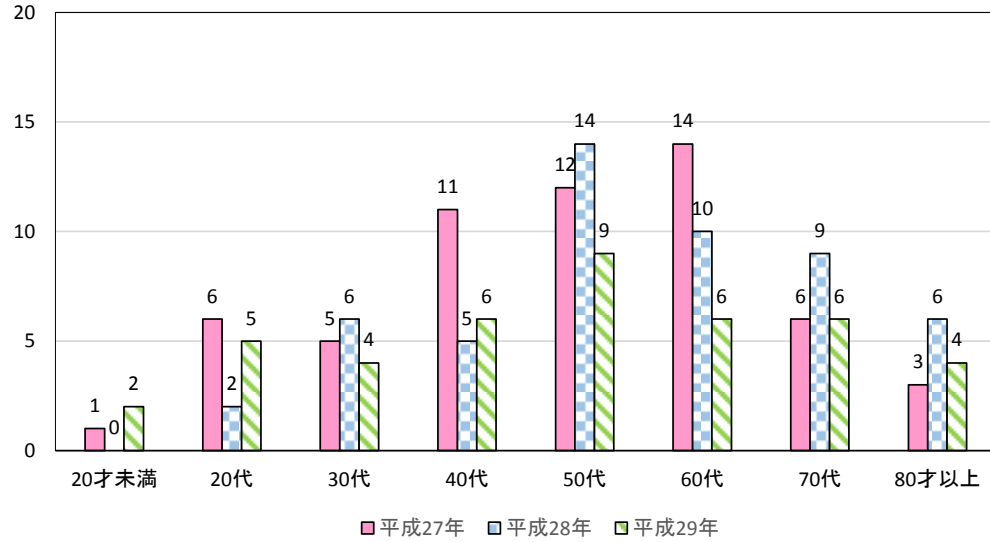
(人)

図Ⅲ-24 男女別自殺者数の推移



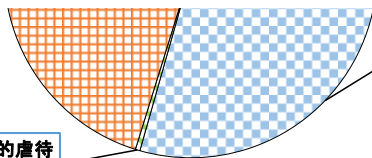
図Ⅲ-25 年齢別自殺者数の推移(市)

(人)



保護(:

5. 自殺の概要

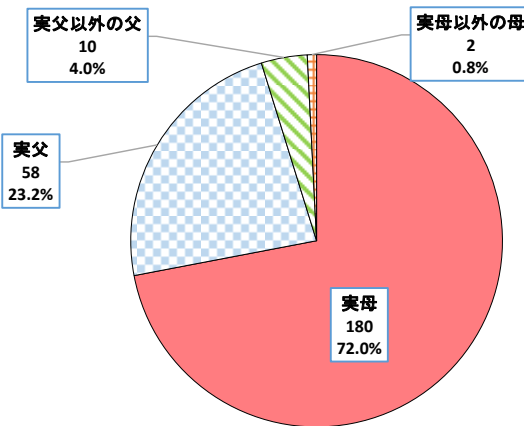


自殺は、性別では男性の比率が高く、女性の約2~3倍

となっている。年齢別では50代が多く、次いで40~70代となっている。

原因別では、男女とも健康問題が最も多く、次いで女性は家庭問題と経済・生活問題、男性は経済・生活問題、勤務問題が多い。

図Ⅲ-23 虐待者別対応件数(平成29年度)



図Ⅲ-26 原因動機別自殺(平成29年度 市、

注 原因動機別は複数計上

